



ふなばし

国際交流協会ニュース

<第40号>

2008年11月26日発行



スマトラ ダンス 国際交流のつどい 2008 で (つどいの詳しい様子は4・5 ページに掲載)

国際交流のつどい 2008

今年のつどいは、10月4日(土) 船橋駅北口の天沼弁天池公園で開催された。「世界はひとつ助け合おうみんなのいのち」と記されたバルーンが好天の秋空に映えた。

ワールドステージ、エスニック料理の屋台、掘り出し物もあるフリーマーケット、商工会議所のあさり汁サービス、救急救命デモや防災マップ配布、吹き矢、ダーツ、射的、あるいは無料国際電話コーナーなどイベントが盛りだくさん。

終日家族連れで賑わい、アジアや欧米の外国人の姿も多く見られた。

ワールドステージでは、市と交流協会からのあいさつを挟んで、最後まで絶え間なく出し物が演じられ、いずれも力演であった。演目は和太鼓、舞踊、管弦楽、ハワイアンバンド、玉すだれ、そしてよさこいソーランとあり、外国人によるものとしては、京劇、フィリピン、コリア、スマトラのダンスや歌が披露された。葛飾中学校管弦楽部は昨年度のコンクールで全国1位に輝いた

けあって、約60名の大編成による演奏は圧巻であった。

救急救命のコーナーでは、実際に数台のAEDも持ち込まれ、応急手当や心肺蘇生法の体験に熱心に取り組む方々も数多く見られた。

また午後からは、起震車や煙体験ハウスも出動して、災害に対する備えを一層喚起した催しになった。救急救命実習では、「人の命を救うために、自分がどれだけの汗を流さなければ救えないのか、自分一人の努力だけでなく周囲の人の協力が必要なことなど、いろいろ大切なことを学んだ。」との感想が印象的であった。

あさり汁コーナーでは、500碗分準備されたが、おいしさが好評で、12時には品切れという盛況さであった。フィナーレでは、多数の女性が観客に溶け込むように演じた「よさこいソーラン!!」が迫力満点で、余韻を残しながら楽しかった一日の幕切れとなった。

広報委員 中川・小柳

外国人のための「災害時 避難所宿泊訓練」

8月30日(土)、中野木小学校の体育館に市周辺から外国人が60人ほど集まった。大地震(想定)に遭遇し、避難所で一泊する人たちだ。

今回の訓練には、京葉食品コンビナート協議会をはじめ、日東ベスト(株)、サッポロ飲料(株)、船橋北ライオンズクラブからの協賛があった。

4時、市交流室のオリエンテーション。4時半に防災マット、寝袋を受け取り、居場所を確保。5時、消防団の指導で命を救うためのCPR・AEDの実習。6時半に協賛企業提供のおにぎり、おでん、フルーツポンチなどで夕食。災害時外国人支援サポーターがそれぞれの母語による状況調査。協会ボランティアが新聞紙、風呂敷などで手作りスリッパとリュックサックの作製を伝授、西瓜割りを楽しんで、10時、激しい雨音を聞きながら就床。

31日(日)、雨上がりの朝。6時、気功体操で身体をほぐし、防災食、ザーサイなどで朝食。9時に新潟県中越沖地震で支援活動を行った時光さん(和歌山県国際交流協会)が中国語で「災害に備えて日頃の心構え」を特別講演。校庭での市総合防災訓練へ参加、バケツリレー、消火器訓練を日本人とともに体験。11時半ごろ、カップ麺、飲料水、寝袋などをおみやげに解散した。



参加した日本語学習者の感想(原文のまま)

●日本では地震はときどき起こっていますので、外国人に対して防災訓練がずいぶん必要があると思います。自分に役立つだけでなく、他人を助けることが出来ると思います。(李 樹豊さん)

●今回の外国人のための防災避難宿泊訓練では災害に対して自分と他人が助け合うにはどうすればよいかということを勉強しました。この訓練を通して命が最も貴いこと、命には国境がないことを感じました。心から感謝いたします。

船橋市市役所、国際交流協会の皆さん。ありがとうございました。(孔 莉さん)(中段写真 左の女性)

後日談

家族3人で参加した魏 偉さんのご主人が通勤の帰路に体調不良の老人をみかけ、周囲の人と協力して119番に通報。老人は事なきを得たという人命救助の実践談がある。もし、今回の訓練に参加していなければ、通報できなかったし、しなかつたろうと語っていた。

広報委員 坂井

仲間がいれば、いつでも、どこでも Shall We Dance?

ふなばしアンデルセン公園の緑化フェア1周年祭にあわせて、10月11日から17日まで、姉妹都市デンマーク・オーデンセ市のフォークダンスグループ11人が船橋を訪問しました。

メンバーは入れ替わっていますがフォークダンスグループが船橋を訪問するのは3年連続。リーダーのカイ・ミカエル・ハンセン夫妻は2回目ということで、すっかり船橋での生活スタイルにも慣れていました。

たくさんの市民が訪れた10月12日の緑化フェア1周年祭。ダンスショーが披露されたドームステージのフィナーレでは、市立船橋高校や法田中学校の出演者に加え、観客までもが一緒に手をつないで踊っていました。

来年は、オーデンセ市との姉妹都市提携20周年を迎えます。今度はどんなグループが来てくれるのか、今からとっても楽しみです。

広報委員 塚原



羽田 JAL 整備工場見学

文化交流グループ 塚原美都恵

10月31日朝8時50分、文化交流グループ企画の行事 JAL 整備場見学（13時のコース）参加の24名が京成津田沼駅改札口に集合。9時7分の高速バスに乗る予定が、予約以外の乗客が多くいたため、我々24名は急遽別のバスに乗ることになった。30分遅れで出発したが、約1時間で到着。空港で時間を調整し、その間展望台で離着陸の飛行機を見たり、買い物を楽しんだ。

40分後モノレールで新整備場へ移動し、JAL 整備場前のビルにある食堂「稲穂」で1時間ほど談笑しながら昼食。その後整備場へ移動し、案内スタッフが来るのを待った。

船橋市に住んでいるというスタッフと共にエレベーターで3階の教室に移動。30人ほどが入る教室でセキュリティのIDパスを身につけ、座学が始まった。まず、飛行機に携わる人々や整備についてのビデオを見た。その後、飛行機はどのようにして飛ぶのか、どのような整備がなされるのか、羽田と成田の整備の連携、環境にやさしい整備や効率良い飛行のこと、空の安全のため24時間体制働く整備士の方々など盛りだくさんの説明があった。CO2削減のために軽くて強度がある素材の利用、燃料効率良い整備、作業効率を上げる努



などそれぞれの話に参加者は真剣に聞き入っていた。

座学後、お楽しみの制服着用。案内スタッフの「3秒で着る制服」という言葉に一同びっくり。それもそのはず、ブラウス、ジャケット、スカートが一つになり、背中をマジックテープで留めるようになっていた。あっという間に憧れのスチュワーデスやパイロットに変身し、模型の飛行機の前やコックピットの席で思い思いのポーズで写真を撮り、あちこちでシャッターの音がした。

最後は、ハンガーと呼ばれる格納庫。ここには大きな飛行機が数機待機していた。我々はヘルメットを被り、開いたエンジンや塗装待ちの飛行機などを見て歩いた。

ハンガーの前は滑走路。この羽田空港の利用客数は世界で4番目、また、2年後には国際線の新ターミナルも完成するようだ。便利になる空港に次々着陸してくる飛行機をカメラに収めながら、約2時間の整備場見学を無事終えた。



国際交流のつどい

2008

アルバム

和太鼓の豪快な音で開幕



救命作業体験



田村会長挨拶

京劇の演技



世界はひとつ 助け合おう みんなのいのち



Korean ダンス

「助け合おう みんなのいのち」のテーマに沿って



煙ハウス



地震体験

いっしょに楽しみましょ



葛飾中学校管弦楽部

大人気のあさり汁



フリーマーケットの賑わい



ワールドステージ

ハワイアン



フィリピン舞踊



玉すだれ



よさこいソーラン



遊びのコーナー



子ども日本語教室 元気にがんばる子供たち

地球っ子プロジェクト代表 宮 慶助

- ▶ Aさん（初めて来室した中国の女子小学生）はじめは緊張していましたが、だんだん表情も柔らかくなってきたように思います。ひらがなの50音読み書きはできると思います。濁音、半濁音の読み書きは、これから指導が必要と思います。カタカナも少し読み書きはできます。Bくんと同じか少し上、Cさんたちが仲間に入れてくれると思いますので、慣れると進みも早いでしょう。
- ▶ Aくん、Bくん、Cくん、Dさん、Eさん、Fさん（いずれも小学生、3カ国）学年がバラバラなので、少し戸惑いましたが、はじめ、算数プリントを学年別のレベルにあわせてやりました。人数が多かったせいか、少し集中力に欠けていたようにも思いますが、最後まで皆やりました。後半は、百ます書き取りをしました。学年にあわせて、漢字がわかるところは、漢字で書くように言ったところ、Cくんが、私にこっそり『おいしい』ってこう書くんだっけ?』と書いて『美味しい』と漢字を書いてみせてくれました。「そうだよ！よく知ってたね！」とほめると女の子たちが「何、何？どう書くの?」と見て漢字に書き直していたので、お互いよい刺激になったのではないかと、思います。

これは、地球っ子プロジェクトが行っている、ある日の「子ども日本語教室」のボランティアの引き継ぎ報告です。教室の風景を感じ取っていただけたでしょうか。



科学館での体験や、ロケット作りの思い出を日記に
中1中国男子(来日1年)の作品

船橋市の小中学校には、日本語指導が必要な子どもが100人ほどいて、増加傾向にあると言われています。地球っ子プロジェクトは、これらの子どもたちの支援のために、毎週土曜日「子ども日本語教室」を実施しています。教室では、7カ国、42人の子供たちが元気に、にぎやかに、そしてまじめに勉強を続けています。

活動は東部公民館、教育委員会、国際交流協会の支援を受け、今年度は文化庁の委託事業となっています。

◇ ボランティア募集中

問い合わせは 宮 047-433-0487 まで

あなたが世界のためにできること 「グローバルフェスタ Chiba 2008」

「グローバルフェスタ Chiba 2008」は8月23日(土)千葉大学「けやき会館」で開催され、入場者約1,500名が来場した。

協会は今回初めて、協会活動のPRを目的に「国際交流・協力活動」紹介コーナーに出展をした。約33団体の出展ブース中、当協会のブースは「けやき会館」の屋外テントに設けられた。

展示物としては、協会が過去に行った、交流行事のパネル写真を飾り、資料も5種類を用意し、配布を行った。さらにホームページ作成と翻訳の協力者を募集する掲示を行い、ブース前を通る人たちの注目を誘った。

広報委員 中谷



協会の活動紹介

国際交流協会では、市内に在住する外国人のみなさんに、下のようにならぬおてつだいをしています。

日本語教室(東部公民館)からこんにちは

東部公民館日本語教室 浦和かほる

同じ住民としての外国人

外国人に日本語を「教える」というと、一方的な支援のイメージが強いのと思います。

先日行われた学習者へのアンケートでは、日本語を早く話せるようになりたいという希望の他に、日本人と交流したい、地域に参加して貢献したい、という声が多く聞かれました。

介護の担い手、留学生 30 万人計画などこれまで以上

に外国人と接する機会が増えてくるでしょう。近所で、学校で、職場で、様々な場面での共生が大切になってきます。

国も地域の日本語学習支援者の重要性を感じ、支援方法を模索しています。「あいうえお」を教える日本語教育だけでなく、外国人とのどんなかかわりかたがふさわしいかいっしょに考えていける仲間が増えたらいいと思います。



教科書が1冊終わると、修了書をあげています



日本語が上手になったので、公民館の子ども料理教室の講師をしているところです

YOKOSO TO FUNABASHI

「ようこそふなばし」は、船橋市在住の外国人の生活情報誌です。年4回 3月、6月、9月、12月に発行され、1995年の初刊以来53回を数え、英語、中国語とふりがな付きの日本語で構成されています。

船橋市のイベント、日本語ミニ知識、病院など厚生施設の情報が紹介されています。

現在「ようこそふなばし」翻訳ボランティアスタッフは18名で、会議には小さなお子さんをつれてママも参加しています。気楽に参加できる集まりです。新たなボランティアも募集中です。

次回の年末号には、船橋市の年末の仕事の予定表も入りますので年末年始のごみ収集の日程も確認できます。

「ようこそふなばし」は、船橋市役所、出張所、フェイスビル、公民館、図書館、市内郵便局に置いてあります。ご覧になってみてください。語学学習にも役立つと思います。

広報委員 福井

外国人相談窓口

17年目に入った外国人相談窓口を国際交流協会が主催・市が共催という形態で、外国人相談窓口委員会が運営しています。

毎週月・金曜日に市役所 114 会議室で 10 時から 16 時まで開設。約 20 名の委員が四つの班に分かれて活動しています。各班の担当日は月 2 回。相談内容は多岐にわたりますが日本語・英語・中国語・スペイン語・韓国語などで対応しています。中国語や韓国語を母語とする委員もいて、相談に訪れる外国人には心強い存在です。

相談をまず親身に聴き、要点を整理・確認してから市の該当部門や他機関へ橋渡しをします。必要ならば通訳として同行もします。

ボランティアで相談にのる委員に専門知識は求められません。日常会話を少し上回る語学力が必要とされるようです。現在委員を募集中。開設日には見学可能です。

広報委員 田嶋



ズームアップ

姉妹都市のオーデンセ市民文化交流団として来船したスウェン&ベンテ・ヨハンセン夫妻が10月11日から15日まで佐藤さん宅に滞在されました。

北本町 佐藤弘子さん

ホームステイを終えて

わが家に滞在されたご夫婦は何事にもチャレンジされる気さくな方達でした。二人は日本食も箸も初めてでしたが、箸は三十分もすると上手に使いこなし、生ビールの泡をおどけて箸で食べる姿に皆で大笑いしました。箸がとても気に入ったようで、浅草に出掛けた時には、家族へのおみやげとして買っていました。そして、自分で作って食べたもんじゃとお好み焼きは、滞在中にチャレンジした日本食の中でも特においしく楽しかったようでした。



また、私たちはアンデルセン公園で彼らのフォークダンスを見せてもらいました。伝統的で楽しく踊っている姿は中世の映画のワンシーンのようで感動しました。可愛らしい衣装は一針、一針奥様が作ったそうです。そしてわが家での最後の夜はお互いの国の言葉を教え合ったり、写真を見ながら思い出を語り合ったり、とても名残惜しい夜になりました。

日本から遠く離れた国に笑顔の素敵な友人が出来、とても感謝しております。



お知らせ

カリフォルニア州立大学への留学生を募集

姉妹都市米国・ヘイワード市にあるカリフォルニア州立大学イーストベイ校への留学生（1年間）を募集します。
期間：21年9月中旬～22年6月中旬 対象：以下の全てに該当する人①日本国籍を有し、市内に継続して1年以上住んでいる②平成元年4月1日以前に生まれ、高校を卒業している③TOEFL525点（iBT71点）以上を取得 募集人数：3名 受入学部：芸術、文学、社会科学、経済、教育、科学 選考方法：1次→書類選考、2次→英語・日本語の面接（2月22日（日））申込：2月13日（金）（必着）までに、所定の用紙を国際交流協会（〒273-8501※住所不要）へ※用紙は、協会事務局で配布。また協会HPでダウンロード可。

外国人のための地域日本語教育を考えるワークショップ開催

船橋市が認定された文化庁からの委託事業の一環として、地域の日本語教育の役割などについて知っていただき、また考える機会としてワークショップを開催します。ぜひご参加ください。

日程・会場・内容

第1回：1月15日（木） 船橋市職員研修所601研修室
（中央消防署裏）

「地域日本語教育とは？」

なぜコーディネーターが必要なのか

講師 野山広氏（国立国語研究所日本語教育基盤情報センター・グループ長）

第2回：1月22日（木） 勤労市民センター第1・2講習室

「地域日本語教育の役割と機能」

～市民生活と日本語教育の専門性～

講師 伊東祐郎氏（東京外国語大学留学生日本語センター教授）

時間 13:00～16:00

定員 各回先着80人

費用 無料

申込み 電話で市役所国際交流室（電話047-436-2083）へ

西安へ日本語の本を贈ろう！

今年で3回目となる西安市外国語学院日本語科への日本語の本寄贈。毎年多くの会員のご協力をいただき、外国語学院でも非常に喜ばれております。

今回もニューイヤーパーティーの開催に合わせて、皆様からの寄贈をお待ちしております。

日時 2月15日（日） 11:30～14:30

会場 中央公民館6階講堂（ニューイヤーパーティー会場）

あとがき

好天に恵まれた秋空のもと「船橋市国際交流のつどい2008」が天沼弁天池公園で開催されました。

今回は防災特集として、防災コーナーでは、起震車及び煙体験ハウス、心肺蘇生法など多くの来場者が列を作り、災害弱者の立場である外国人の中にはあらためて災害の恐ろしさを体験した人もいました。一方ワールドステージ、世界の模擬店、フリーマーケットも多くの人で賑わっていました。

交流のつどいなどの協会行事を通じて、各国の人々との交流、親善の輪が広がるよう努めていきたい。

(K.O.)